

## 申17号 第二回交渉 乗務員用教育訓練アプリ(Ｊトレ) 導入に関する緊急申し入れ

**組合** ・水戸支社における、タブレット未配備の課題を整理していく必要がある。全支社で認識が統一され、準備ができてから実施していくべきだ。

・ランキングは職場に必要な。会社として「本意では無い」資料が現場に出ている現状についてどのように把握し、どのように修正するのか明らかにするべきだ。 **認識が合わず!**

・Ｊトレを使用することが絶対の目的になってはいけない。 **関係する職場での準備が整ってから運用すべきだ!**

・4/3 現在で、水戸支社のタブレットは未配布だ。地方交渉を見守る。

・本社の意図しない内容が入った資料が配布された職場があった。本社の資料に **会社**  
基づく再徹底を明日までに行いたい。各支社の教育資料や内容はチェックしていく。

・ランキングではなく、区所の弱点把握がメインだ。Ｊトレの活用は現場の発意で決める。

・各職場の指導担当が習熟するために、URL とアプリの配信はしたい。本運用とは別だ。

1. 「仕事の本質をつかみ行動する」ということから、乗務員の教育・訓練等のあり方を明確にすること。

**組合** ・「仕事の本質」をどのように考えているのか。

・ICT や AI 等を取り込んでいく重要性は否定しない。だが、鉄道は三現主義に加えて原理・原則も大切である。こういった教育の基本認識は労使で合わせるべきだ。

・三現主義が大切だと言っても、現車訓練のために車両を確保することが難しくなっている。効率重視とダウンサイジングによって厳しくなっている。同時に OJT が大切だと言っても、相反する内容のどこでバランスをとるのか。現車確保の具体策は明らかにするべきだ。

・ **仕事の手順やルールの「なぜ」を教えていくことが「仕事の本質」につながる。**

・教育は人が教える OJT が大切だ。そこに Off-JT 等をどう組み合わせるかが **会社**  
重要だ。Ｊトレは訓練を補完するツールである。紙ベース、ビジュアル資料、現物が合わさって訓練や教育を行うべきだ。 **Ｊトレで定例訓練は置き換えられない。**

・現車訓練のために回送までしている苦労は承知している。限られた経営資源の中で、最大の効果を発揮するようにしていきたい。 **教育・訓練はOJTが基本であることを確認!**

2. Ｊトレを導入する根拠を明確にすること。また、基本コンセプトと主要機能を明確にすること。

・導入の目的は事故防止と教育訓練の更なる充実で、主要機能は問題作成、回答、習熟度把握、振り返りだ。指導担当の権限がないと区所の習熟度は見られない。 **会社**

・習熟度はチャートやグラフでの表示も出来る。どのようなレーダーチャート等が欲しいかは、本社が決めるのではなく、現場で判断して作り込んでいく。

・Ｊトレのみで習熟度を測ることはできない。添乗指導などでフォローしていく。

**組合** ・200 人を超えるような大きな職場では、Ｊトレの後フォローができるのか疑問だ。

・Ｊトレはゲーム感覚になってしまう。同じ問題を繰り返し解いていけば、満点に近づくが、それで本人や指導担当が「内容を理解したと」判断するのは非常に危ない。

・理解の確認とフォローは、その瞬間、その場ですべきであり、Ｊトレだけに頼ってはいけない。 **現場の中で安全をつくり込んでいくことが本来あるべき教育訓練だ!**

**安全はゲームから生まれない! 三現主義に基づいた教育・訓練体制を創りあげよう!**